

美しい多摩川フォーラム・第2回運営委員会議事録

日 時 : 平成27年1月29日(木)15:00~16:30

会 場 : 立川グランドホテル(JR立川駅北口)2階キャンティ

出席者 : 会 長 細野 助博 中央大学大学院公共政策研究科教授
副会長 小倉 紀雄 東京農工大学名誉教授
副会長 平野 啓子 語り部、大阪芸術大学教授
副会長 森田 昇 青梅信用金庫 理事長
顧 問 永田 俊一 楽天銀行(株) 取締役会長
委 員 板倉 広泰 東京都 産業労働局 観光まちづくり担当課長
輪千 徳也 青梅市 建設部 計画調整担当 主査
小森 公夫 日の出町 産業観光課 課長
滝沢 修一 羽村市 産業環境部 産業課 課長補佐
守屋 和洋 八王子市 水環境部 水環境整備課
原 正明 日野市 環境共生部 緑と清流課 課長
瀬戸 隆司 大田区 都市基盤整備部 臨海部基盤担当課長
芝元 憲太郎 東日本旅客鉄道(株) 八王子支社 副課長
小澤 順一郎 小澤酒造(株) 取締役社長
小峰 幸憲 東京都森林組合 組合長
小野木 喜博 (公財)とうきゅう環境財団 常務理事事務局長
渡邊 勇 おうめ水辺の楽校運営協議会 会長
山崎 充哲 ガサガサ水辺の移動水族館 館長
馬場 真人 近畿日本ツーリスト(株) 首都圏西団体旅行支店 課長
浅見 芳雄 (特非)緑の大地会 理事長
栗原 洋三 大田観光協会事務局長
宮坂 不二生 青梅信用金庫 特別アドバイザー
アドバイザー 藪田 雅弘 中央大学教授 経済学研究科委員長

(敬称略、以下同様)

配布資料 : (第1号議案)平成27年度事業計画骨子・同予算(事務方素案)

(資料 1)第6回・美しい多摩川クリーンキャンペーン開催

(資料 2)第3回・多摩川“水”大学講座開催

(資料 3)「酒蔵街道」商標登録出願手続完了

(資料 4)第7回・多摩川子ども環境シンポジウム開催

(資料 5)公益財団法人とうきゅう環境財団・「助成調査・試験研究の概要に関する中間報告書」及び「2015年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究(「多摩の物語」関係)助成金交付申請書提出」

(資料 6)青梅市下長淵地区にて桜の植樹式開催

(資料 7)「多摩の物語」の語り会

(資料 8)第6回“美しき桜心の物語”の語り会(府中市・大國魂神社)

(資料 9)第4回・桜守学校開催

1. 開会（運営委員会成立の確認、資料確認）

（事務局）

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成26年度第2回運営委員会を始めさせていただきます。本日の運営委員会は、出席委員、代理出席委員、書面議決書提出委員合せて47名で運営委員総数の過半数を超えておりますので、フォーラム規約第13条3項の規程により、本委員会が成立しておりますことをご報告いたします。始めに、本月初めて運営委員会にご出席される方をご紹介します。

（東京都 産業労働局 観光まちづくり担当課長 板倉 広泰 様）

板倉と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

（羽村市 産業環境部 産業課 課長補佐 滝沢 修一 様）

滝沢と申します。本日、市長が公務で欠席となりましたので、代理で出席させていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

（近畿日本ツーリスト(株) 首都圏西団体旅行支店 課長 馬場 真人 様）

馬場と申します。支店長の平沼に代わり、出席をさせていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

（八王子市 水環境部 水環境整備課 守屋 和洋 様）

守屋と申します。よろしくお願ひいたします。

（事務局）

有り難うございました。それでは、細野会長に開会のご挨拶をよろしくお願ひします。

2. 細野会長挨拶

（細野会長）

美しい多摩川フォーラム平成26年度の第2回運営委員会でございます。4年前、巨大な地殻変動が起き、多大な被害がありました。今度は地政学的な影響が地球規模で起こっています。色々考えますと、地域それぞれでどのようにしっかりとした社会を作っていくべきかが問われている時代ではないかと思ひます。私たちの運動が世界に対してどういふ影響を与えていくか、着実に足跡を残しながら世界の平和の貢献に一助になればと思ひます。本日は、来年度に向けてどのような活動を展開していくかを含めて、皆さんのお意見をいただきたいと思ひます。

それでは、11月の第1回運営委員会以降の経過報告を事務局にお願ひします。

3. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。前回11月の運営委員会以降に実施された活動につきまして、お手元の資料の表紙に時系列でお示しております。それでは、その中から(1)番の活動につきましてビデオにまとめておりますので、入口のスクリーンをご覧ください。

— ビデオ放映 —

経過報告を続けます。

(1) 第6回・美しい多摩川クリーンキャンペーンの開催(11月中)【資料1】※

- ・【資料1】をご覧ください。今年度は、新たに行政では、多摩市様、民間企業では、株式会社東急百貨店様、近畿日本ツーリスト株式会社様、NTTコムウェア株式会社様の4団体が新たに参加され、連携団体は25団体となりました。今年度、初めてご参加された団体を代表して、近畿日本ツーリスト株式会社首都圏西団体旅行支店の馬場課長様に、参加されてのご感想等、一言お願いします。

(近畿日本ツーリスト株式会社首都圏西団体旅行支店 課長 馬場 真人 様)

ビデオにありました通り、私は、11月15日に多摩市で開催された「美しい多摩川クリーンキャンペーン」に参加しました。思っていたよりゴミが少なかったように感じました。恐らく、行政、ボランティア、子供会、婦人会、近所の方々が掃除をしてくれているのか、とても気持ち良く生活させていただいているなあと思いました。また、準備が大変だったと思いますが、この活動を長く続けて、私どもの会社を含めて一人でも多くの人たちが参加してくれば良いと思いました。

(2) 第2回・多摩川“水”大学講座開催(全6回・11/21 最終回)【資料2】

- ・【資料2】をご覧ください。今年度は、立川市との共催で開催し、全カリキュラムが終了しました。講師は、当フォーラムの小倉副会長にお願いし、講座を通じて「水環境のリーダー」の養成を目指しました。なお、第4回目となる来年度は、八王子市と共催する方向で調整中です。小倉副会長、一言お願いします。

(小倉副会長)

昨年 11/21 に、今年度の講座(全6回)が終了しました。24年度は調布市、25年度は国立市、そして来年度は立川市を予定しています。定員は25名ですが、最後まで講座を修了した方は15名でした。全6回の講座毎に感想文を書いてもらっていますが、「難しい」という意見があったので、なるべく分かりやすいような話を心掛けていきたいと思えます。

(八王子市 水環境部 水環境整備課 守屋 和洋 様)

多摩川“水”大学講座の会場として、八王子市の「あったかホール」を使用させていただくことになりました。この「あったかホール」は、平成9年10月にオープンし、八王子市民の環境学習に活用してもらっています。今回、水に関する総合的な学習をしていただけるということで、まさにうってつけの場所だと思っております。また、講師の小倉先生につきましては、八王子市水循環計画で大変お世話になっており、ぜひ八王子市としても協力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(3)「酒蔵街道」商標登録出願手続完了(11/28)【資料3】

- ・【資料3】をご覧ください。美しい多摩川フォーラムでは、昨年11月5日の運営委員会で「酒蔵街道」の商標登録の出願が承認され、同月28日に手続が完了しましたので、ご報告いたします。なお、【資料3】の3枚目に多摩川酒蔵街道のチラシを添付しております。昨年11月から12月上旬にかけて、バス会社や旅行会社のツアーが行われましたが、ツアー参加者をお迎えした小澤酒造取締役社長の小澤運営委員様、様子はいかがでしたでしょうか。一言、お願いします。

(小澤運営委員)

ただいまご説明があった通り、酒蔵は清酒の製造工場ですが、近年、文化的・観光的な意味で地域の資産であるという認識がされてきております。海外に向けて「酒蔵ツーリズム」という言葉が使われ、今、外国のお客様を日本の酒蔵にお招きする国家プロジェクトも始まっています。そういった意味では、「多摩川酒蔵街道」は最先端の事業であると感じています。お陰様で、いらっしゃったお客様には、「酒が好きで、沢山飲んで良かった」「西多摩地域が日本酒の里であったことを知って驚いた」と喜んでいただきました。はとバスさんからは、すでに次回の相談もいただいています。今回、「酒蔵街道」が商標登録されたことは、大変重要な意味があると思います。今後ともよろしくお願いいたします。

(4)第7回・多摩川子ども環境シンポジウムの開催(12/6)【資料4】

- ・【資料4】をご覧ください。第7回目となる「多摩川子ども環境シンポジウム」が、昨年12月6日(土)に、昭島市のフォレスト・イン昭和館において、総勢171名の発表関係者・一般来場者が参加し、開催されました。「多摩川のここが大好き！」というテーマで、多摩川流域の小中学生による発表が行われ、今年も大変充実した内容となりました。今回は久しぶりに篠塚名誉会長にご出席をいただき、冒頭の開会のご挨拶を頂戴いたしました。なお、発表内容については、「みんなの発表誌」にまとめ、本年3月上旬に発表者や教育関係者ほか関係団体の皆さんに配布する予定です。今回、実施に当たってサポートをいただいた山崎教育文化副部会長、一言お願いします。

(山崎教育文化副部長)

7年続いている事業ですが、毎年子どもたちの発表内容が進化し、目覚ましいものがあります。大人の感覚では「えっ！」というようなことを、子どもたちの視点で発表し、非常に有意義な会になっています。多摩川流域では、このような子どもたちの会が何ヵ所かで開かれています、ALL多摩川の会は当フォーラムだけだと認識しています。今後、どのように子どもたちを伸ばし育てていくかを我々も考えていきたいと思っています。

(5) 公益財団法人とうきゅう環境財団・「助成調査・試験研究の概要に関する中間報告書」及び「2015年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究(「多摩の物語」関係)助成金交付申請書提出」(1/14)【資料5】

- ・ 【資料5】をご覧ください。今年度の調査研究活動は、計画どおり順調に進捗しています。現在は、3月4日に羽村市で開催する「多摩の物語」の語り会に向け、準備を進めています。また、本助成金の2年目に当たる2015年度は、多摩川流域の各地に伝わる民話の掘り起しの為、実地調査した内容を「多摩の物語」として小冊子にまとめる計画となっております。平野副会長、補足説明等ございましたらお願いします。

(平野副会長)

前の2年間連続で、多摩川の上流部で出くわす「多摩の物語」を掘り起こし、冊子にまとめました。これは農水省さんの交付金で作成しました。これを続けたいと思っていたところ、とうきゅう環境財団さんから調査費をいただき、今度は多摩川の中・下流域の「多摩の物語」の掘り起こしを行いました。これで多摩川全域の掘り起こしが出来たので、大変感謝を申し上げます。お陰様で、今回の物語も私の仲間が精力的に掘り起こしてくれました。

日本全国色々なところで、地域の物語の掘り起こしはされていますが、この「多摩の物語」の大きな特徴は、観光する人たちの目線で書かれているということです。観光客を受け入れる観光ボランティアの目線ではなく、その土地を訪ねて行った人たちが、「こんな物語に出くわした!」「こんな食べ物に出くわした!」「こんな歴史に出くわした!」といった驚きが随所に出てくるような物語に仕立てています。こういうやり方で地域起こしの物語を作っているところは他にあまりないと思います。これが、「この土地を訪れてみたい」と思うきっかけとなるひとつの“いざない”になればと思っています。

今回羽村で開催されるイベントで中・下流域の物語を披露するにあたって、新たな視点として加えたのは、「防災」です。かつて、川の氾濫に伴う色々な物語が生まれていて、それらが民話だけではなく、色々な形で残され、盛り込まれていて、あっと驚くすごく面白い物語もあります。私はイベント当日、羽村にまつわるお話を披露しますが、災害や氾濫と戦ってきた人たちがどう乗り越えてきたか、どんなに素敵な話であるかを披露させていただきますので、ぜひ会場にお越しください。

(6) 公益財団法人とうきゅう環境財団・「2014年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究(「多摩川一斉水質調査」関係)進捗報告について

- ・ 本助成金は、今年度が調査研究活動の最終2年目に当たります。進捗状況につきましては、渡邊部会長よりご説明をお願いします。

(渡邊環境清流部会長)

いま報告がありましたように、とうきゅう環境財団から助成金をいただき、25年度～26年度にわたって、『市民や子どもたちによる多摩川流域一斉水質調査についての新たな展開』というテーマで調査・研究を続けて参りました。3月中にまとめて報告する予定です。多摩川の水質を測定するためには、子どもたちやリーダーとなる大人に向けて、基準となる冊子「身近な水の調べかた」をまとめました。これをもとに水質調査を実施していただきたいと思っています。この冊子は、小倉副部会長に監修いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。冊子が完成しましたら、1,000部ほど印刷し、関係者にお配りしたいと思っています。

(事務局)

有り難うございました。ここで、とうきゅう環境財団 常務理事事務局長の小野木環境清流副部会長に一言お願いいたします。

(小野木環境清流副部会長)

私どもは、多摩川を主要な事業エリアと考えている財団です。まず渡邊さんの水質については、最近多摩川の水がきれいになって魚が戻ってきたという報道もありますが、渡邊さんの研究のように、お子さんを巻き込んだ市民が、水質に対して関心を持つ一種の啓もう活動となっており、我々も重要視しています。また、平野さんの「多摩の物語」については、偉大な川があったからそこに人が住むようになり、物語が生まれたという意味で、昔の人々が多摩川とどう付き合ってきたのかを掘り起こし、さらに未来に繋がる物語に仕上がるのではないかと、大変期待をしております。

渡邊さんはどちらかというとハードで、平野さんがソフトで、多摩川のハード面とソフト面の両方でお手伝いできて良かったと思います。

(7) 第7回・美しい多摩川フォトコンテスト審査結果(1/20)

- ・ 先週20日(火)に、フォーラムの事務局がある青梅信用金庫本店内におきまして、第7回目となる美しい多摩川フォトコンテストの作品審査会が開催されました。今回の作品応募点数は、「多摩川の風景・人々部門」が146点、「多摩川夢の桜街道部門」が90点で、合計236点の応募があり、昨年に比べ44点ほど応募点数が減少しました。審査結果でございますが、「多摩川の風景・人々部門」、「多摩川夢の桜街道部門」

の各部門において、最優秀賞が1点、優秀賞が1点、入賞が2点選ばれました。また、佳作が「多摩川の風景・人々部門」より15点、「多摩川夢の桜街道部門」より5点、新たに設けられたファミリー賞、キッズ賞各1点が選ばれました。この審査結果は、2月2日に美しい多摩川フォーラムのホームページで公開する予定ですが、本日は役員の皆さんに一足早く上位の作品をご覧いただきたいと思い、入賞作品をサイドのテーブルの上に並べておりますので、後ほどご覧ください。

(8) 青梅市下長淵地区にて桜の植樹式開催(2/8)【資料6】

- ・【資料6】をご覧ください。前回の運営委員会において、青梅市下長淵地区での桜の植樹が承認され、その後、青梅市様、地元自治会様、緑の大地会様等関係者との間で、様々調整を行い、来月8日に桜の植樹式を開催する運びとなりました。青梅市計画部計画調整担当主査の輪千様、緑の大地会理事長の浅見運営委員よりご説明をお願いします。

(青梅市 建設部 計画調整担当 主査 輪千 徳也 様)

青梅市では、かねてから多摩川の景観の向上を目的に、桜の植樹を考えておりましたが、今回多摩川フォーラムさんからご寄付をいただくことで、実現することになりました。また、緑の大地会様からは、植樹に関するアドバイスをいただき、2月8日に植樹式を行う予定です。この企画は、多摩川フォーラムさんなしでは実現できなかったと思います。青梅市を代表しまして、感謝を申し上げます。有り難うございました。

(緑の大地会 理事長 浅見 芳雄 様)

桜の植樹については、3～4年待たされましたが、ようやく実行できて良かったと思います。私はこういう席で話をするのが苦手なのですが、現場での作業は一生懸命やりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(9) 「多摩の物語」の語り会(3/4 羽村市生涯学習センターゆとろぎ・小ホール～

語り部・平野副会長&お弟子さんによる語り)【資料7】

- ・【資料7】をご覧ください。本件は、とうきゅう環境財団様からの助成により開催します。多摩川流域に伝わる物語発掘のための実地調査も仕上げの段階に入っており、3月4日の語り会での発表に向け、準備を進めています。本件につきまして、平野副会長、補足説明等ございましたらお願いします。

(平野副会長)

先ほど話してしまいましたが、みんなやる気になって頑張っています。前回の会議では、「うなぎが土手の決壊を救った」という日野の話を紹介しましたが、今日は稲城の話

を少し紹介します。稲城に住んでいた河童が、自分の巣が壊れて住めなくなり、その時助けた人間がいて、その後だいぶ経ってから河童と人間が御岳で偶然出会って、河童が「あの時助けてくれて有り難う。実は住処が壊れて御岳に越して来たんだ。」と打ち明けます。民話にも御岳山が出てくるのです。サラサラと話すあまり面白くないのですが、当日は、人を惹きつけるような語りで披露します。「多摩の物語」は、調査費をいただいているので、データ等ちゃんと元を取り、ドキュメンタリーが物語になっているように仕上がっています。ぜひ皆さん会場にお越しください。

(10) 第6回“美しき桜心の物語”の語り会(3/22 府中市・大國魂神社～

語り部・平野啓子副会長)【資料8】

- ・ 【資料8】をご覧ください。今春は3月22日に府中市にあります大國魂神社にて、府中市と大國魂神社のご後援のもと、平野副会長による「桜の語り会」が開催されます。本件につきまして、平野副会長より一言お願いします。

(平野副会長)

もう第6回になるんですね。感慨深い想いです。こういった積み重ねができるのも、皆さんと事務局のお陰だと思います。この事業は、桜の咲く時期を狙って桜にまつわる話をしますので、まさに桜づくしのイベントです。東京新聞を読んで知ったのですが、大宰府天満宮の紅白の梅が府中市に寄贈されたそうで、非常にショックを受けました。なぜ桜じゃなかったのかしらと。まあ、梅も桜も元の種類は一緒なので、梅も絡めてお話できればと思っています。また、青梅市にもいつか梅が復活すれば良いというお話に繋げていきたいと思っています。

このイベントの受付はまだ開始されていないのですが、なんと府中市ロータリークラブから50人の申込みがあったそうです。定員100名のうち半分が埋まりましたが、本当に50席分来ていただけるよう目配りしないといけないなと思いますし、私のほうからも連絡を取ってみたいと思っています。こちらについても、もしよろしければお越しください。

(11) 第4回・桜守学校開催(3/27)【資料9】

- ・ 【資料9】をご覧ください。今春も第4回桜守学校を都立小金井公園で開催します。3月1日に、後援の小金井市様のご協力により、小金井市報、フォーラムのホームページに実施内容を掲載し、募集案内を開始する予定です。以上で、経過報告を終わります。細野会長、よろしくお願いします。

(細野会長)

事務局からの経過報告で、ご質問などございますか。ないようですので、本日の協議事項に入りたいと思います。それでは第1号議案の「平成27年度事業計画骨子・同予

算(事務方素案)」ですが、事務局の方からご説明をお願いします。

4. 協議

(1) 第1号議案:平成27年度事業計画骨子・同予算(事務方素案) (事務局)

はい、第1号議案:平成27年度事業計画骨子・同予算(事務方素案)をご覧ください。まず、会費収入は、平成26年度着地見通しと同様、2,100,000円を見込んでおります。寄付金として、青梅信用金庫様より8,000,000円、委託金として青梅市様より264,400円、助成金としてとうきゅう環境財団様より228,000円、前期繰越金が1,604,470円を見込んでおり、合計が12,196,870円となります。一方、支出の部ですが、平成26年度事務雑費等の中に見込んでいた印刷費を分離し、印刷費等396,000円、事務雑費等200,000円を計上しております。

次ページの「平成27年度事業計画骨子(事務方素案)の主な実施内容について」をご覧ください。基本的には継続事業が中心です。新規事業として、経済軸に③御岳・冬物語とありますが、これは、冬の御岳山で「多摩の物語」の語りを実演する企画で、前回の運営委員会で来年度トライアル事業として実施することで合意が得られたものです。しかしながら、このほど、本年12月については、平野副会長の日程確保が難しいことが判明しましたので、本日の意見交換の場で、皆さまからお知恵を頂戴し、次回3月24日の運営委員会までに企画を見直し、修正したいと存じます。⑤シーカヤック体験教室ですが、大田観光連盟では、大田区カヌー協会と連携して毎年開催しているもので、フォーラムの後援名義の提供とPR等の協力をさせていただくというものです。

また、JR東日本八王子支社様等と連携して毎年実施してきた「駅からハイキング」については、JR東日本様が、これまで多くのお客さまを集める単発のイベントとして実施してきましたが、今後は、ある一定期間を設けてイベントを実施する期間設定型に移行するというJRの方針を受け、大変残念ではありますが中止せざるを得ない状況となりました。一方、JR東日本様は、『「多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り」を観光ルートとして、積極的にPRしていく』とのことですので、これまで以上に連携を強化していくことになりました。

なお、これまで毎年開催してきた「美しい多摩川フォトコンテスト」につきましては、ここ数年、応募者のうち大半をリピーターが占める傾向が顕著になり、作品も過去の入賞写真を真似たものが目立つことから、事業の継続実施について様々検討したところ、賞金を提供するコンテストとしての役割は果たしたとの結論に達し、今春で終了することと致しました。今後は昨年からスタートした美しい多摩川フォト教室を充実させていくことと致しました。

次ページの「平成26年度事業予算執行実績(12月末現在)」をご覧ください。まず、収入の部ですが、会費収入については、300,000円下振れする見通しとなりました。こ

これは、フォーラム会員であるJT(日本たばこ産業株式会社)様が国内業務の大幅スリム化の一環として、今春、立川支店を閉鎖するのに伴いフォーラムを退会するため、大口の会費収入が見込めなくなったことによるものです。寄付金Ⅲの707,778円ですが、東急百貨店のココエコチャリティーイベントの寄付金になります。寄付金Ⅳの198,425円ですが、たまりバー50キロ命名記念・RUN&WALKを通じて寄せられた大田区民有志の皆さんからの寄付金になります。

一方、支出の部ですが、事務雑費は200,000円の上振れとなりました。主な要因ですが、多摩川フォーラム専用のインクジェットのプリンターが故障したことに伴い、昨年7月にキャノンの複合機をリースで導入、今年3月までの資料等印刷費254,181円を見込んだことによるものです。次に、多摩川酒蔵街道事業は、363,200円の上振れとなりましたが、これは、「多摩川酒蔵街道ワーキング・グループ」の連携先の皆さんのご協力によりまして、当初考えていたものより格段に素晴らしいスキームが出来上がったことに伴い、チラシも効果的な両面カラー印刷にしたほか、前回昨年11月の運営委員会において承認された「酒蔵街道」の商標登録申請費用として216,200円を急遽計上したことにより上振れしたのですが、下の方にあるパンフレット等制作費300,000円を組替充当しております。なお、桜の植樹費用についても、前回の運営委員会で新たに承認されたものです。その結果、次期繰越金見込額は、1,604,470円となります。

次ページの「美しい多摩川フォーラム・平成26年度活動報告と今後の予定」ですが、今年度も、年度末には年間を通じて、50を超える事業活動を実施することになります。後ほど、じっくりとご覧ください。ご説明は以上です。細野会長、よろしく申し上げます。

(細野会長)

それでは皆さん、ご質問やご意見がございましたらお願いします。先ほど事務局から、「駅からハイキング」のような単発事業ではなく、一定期間の事業に変わるが、「多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り」を観光ルートとして、JRさんが積極的にPRしていくということでしたが、この件について、JR東日本の芝元様、一言お願いできますでしょうか？

(東日本旅客鉄道(株) 八王子支社 副課長 芝元 憲太郎 様)

先ほどご説明があった通り、弊社で行っておりました「駅からハイキング」については、多摩川フォーラムさんにも色々な形でご協力をいただき、有り難うございました。弊社内で事業の見直しがあり、一日限りのイベントは天候に左右されやすいということもあり、我々は多くの皆さまが、地域にある程度の一定期間来ていただき、イベントが終わっても引き続き来ていただきたいという想いから、1～3ヵ月程度のハイキングを設定していこうということになりました。ただ、我々八王子支社としましては、多摩川沿い、特に青梅線・五日市線について、多摩川フォーラムさんが推奨している桜をテーマにしたハイキングは引き続きやっていきたいと思っておりますので、具体案については、事務局の皆

さんと調整しておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

(細野会長)

有り難うございました。ここでJTさんのお話をいたします。非常に残念なことです、JTさんからの会費300,000円がなくなります。というのは、JTさんの意思決定が虎ノ門からジュネーブに移り、ガバナンスの面で虎ノ門が単独で判断することができなくなりました。立川支店は閉鎖され、東京はひとつの支店に統合されます。私からも色々お願いしてみましたが、退会されることになりました。

さて、他にご意見等ございますか。ないようでしたら、ご承認いただけますでしょうか…(拍手)。有り難うございました。なお、この第1号議案は、最終的に総会提出議案を審議する3月24日開催の第3回運営委員会にて最終決定されますのでご承知置きください。以上で協議事項は終了しました。次の意見交換について、事務局の方からご説明をお願いします。

5. 意見交換

(1)「多摩川の歌」の普及について

(事務局)

はじめに、「多摩川の歌」をお聴きください。…只今お聴きいただいた「多摩川の歌」ですが、作詞は日本を代表する現代詩人である谷川俊太郎さん、作曲は谷川さんとコンビを組むことが多い寺嶋陸也さんにご協力をいただき、平成22年春に完成しました。その後、平成23年春にCD化し、秋には多摩川流域の公立の小中学校に配布しました。また、DVDも制作し、平成24年1月の運営委員会で初披露しました。

過去のフォーラムの総会では、プロの三多摩青年合唱団にこの「多摩川の歌」を歌っていただいたほか、多摩川子ども環境シンポジウムでも、東村山第二中学校の生徒さんに歌っていただくなど、「多摩川の歌」の普及に努めて参りました。しかし、世の中における浸透度はまだまだの状況です。このため、今後、さらに「多摩川の歌」を普及させていくためにはどうしたらよいか、皆さんのお知恵やご意見をいただければと存じます。ちなみに、昨年末に開催された「第7回多摩川子ども環境シンポジウム」の発表誌の裏表紙に多摩川の歌を大きく取り上げてPRしてきたいと考えております。それでは細野会長よろしく願いいたします。

(細野会長)

歌詞もメロディも素晴らしいのですが、認知度が低いということです。各小学校や中学校にはすでに配布しているのですが、歌う機会がないということなのではないでしょうか。この件について、何かご意見があればどうぞ。平野副会長、何かアイデアはありますか。

(平野副会長)

私も色々な芸能界の付き合いがあり、芸術家の方からCDをもらう事もありますが、やはり聴く機会というのはなかなかありません。CDを作ることは広報にはなりますが、それを実際に聴いてもらうのは難しいのかもしれない。「多摩川の歌」を子どもたちに口ずさんでもらうにはどうしたら良いのかを考えると、聴かせることよりも歌わせることなのではないかと思います。ある大手教科書会社の副教材で、詩を分かってもらう事が大切だということで、童謡唱歌の詩の朗読を始めておりますが、「多摩川の歌」の素晴らしい詩の意味を分かってもらい、それがメロディに乗る、まさに昔の日本人が歌を楽しんだ原点で、とにかく、声に出して歌ってもらう機会を作ることが大切なのではないかと思います。鑑賞だけに終わらせない方が良くと思います。

(細野会長)

有り難うございました。他にいかがですか。

(山崎教育文化副部長)

フォトコンテストの事業がフォト教室に変わるという話がありましたが、予算が余る訳ではないでしょうが、合唱コンクールをやれば話が早いのではないのでしょうか。学校や一般の合唱団に呼び掛け、賞金を掛けてビデオ審査やネット投票などもできます。

(細野会長)

良い案ですね。他にいかがですか。フォーラムのイベントの最初に、みんなで合唱するというのも手ですよ。ジワジワ浸透していくというのも手かもしれません。

(事務局)

有り難うございます。夏には親子関連のイベントがありますが、夏のイベントや子ども環境シンポジウムの時に、出来るだけ露出をしていきたいと考えています。また、部会や運営委員会の冒頭で、たった2分の歌なので、「多摩川の歌」を流して口ずさむという試みもやってみたいと思います。ただし、歌の長さが2分ですと、ある先生からは、「合唱はたいてい4分～4分半に限定される傾向がある」ということで、コンテストを主催すれば良いのかも知れませんが、一般のコンクールで歌ってもらうのは難しいかもしれません。

以前、山崎さんがおっしゃっていたYoutubeについて、ご意見があればお願いします。

(山崎教育文化副部長)

川崎からいくつかYoutubeで発信しているものがあるのですが、3年続けても、1時間の生放送に30アクセスしかありません。1ヵ月経ってやっと100アクセスですから、思っ

た以上に厳しいかもしれません。Youtubeを見ても、見た人に何も良いことがないのです。どうやってアクセス数を増やすか、対策を練らないと、ネットは厳しいと思います。それよりも、コンクール等を開催し、子ども環境シンポジウムで表彰し、歌えば賞金がもらえるというような雰囲気作りをしていかないと、受け身体制では無理があるような気がします。実は、自分の facebook を悪意ある第三者に乗っ取られ、facebook は一切やめました。学校でも SNS に対して注意を呼び掛けているようなので、1、2歩下がってアナログに戻るのもありかなと思います。平野さんの語りのように、目の前のお客さんを見ながら話をすることが大事であるという姿勢をもっと大切にするのもありではと思います。ネットは確かに便利ですが、裏を返すと非常に危険です。

(細野会長)

貴重なご意見有り難うございました。では、次の「御岳・冬物語」の実施内容について、事務局より説明をお願いします。

(2)「御岳・冬物語」の実施内容について

(事務局)

先ほど申し上げましたとおり、「御岳・冬物語」のコンテンツについてご意見等がありましたら、是非よろしくお願ひしたいのですが、その前に、そもそも「御岳・冬物語」についての経緯について、簡単にご説明させていただきます。

経済軸の柱として、春には「多摩川夢の桜街道」で桜をPRし、交流人口の増加を図り、定着しつつあります。また夏には「大人のカヤック体験教室」を3年前からスタートさせ、非常に反響が大きく、50歳代～70歳代の方もひとりで参加されるほどでした。来年度については、上流のカヤックだけではなく、大田観光協会さんが以前から主催している下流のシーカヤックを多摩川フォーラムが後援する形で取り入れ、スタートさせる予定です。また秋には「多摩川酒蔵街道」事業が昨年スタートしましたが、男女問わず反響が大きく、すでに今年の秋の話も出ているほどです。いよいよ冬の事業が確立できれば、通年で地域経済活性化事業を運営できることとなります。

色々なアイデアがある中で、『例えば冬に御岳山で「多摩の物語」の語り会をやったらどうか』という案が出て、前回の運営委員会でゆるやかな合意が得られましたが、先ほど申し上げた事情がございますので、皆さんの意見をいただきたいと思います。冬の御岳山は寒いですし、雪も降るという条件はありますが、山の上には24軒の宿坊があり、特異な場所でもあります。そういった中で、冬の御岳山で出来るアイデア等があれば、お聞かせください。

(細野会長)

皆様のお知恵を拝借したいということですが、いかがでしょうか。四季のうち、春夏秋

については既にイベントが確立されています。次は冬ということですが、いかがでしょう。

(山崎教育文化副部会長)

2年前、冬の御岳山に1泊2日でデヴィ夫人と一緒に行ってきました。宿坊に泊まりましたが、夜景がきれいでした。横浜のベイブリッジが見えます。昼間は関東一望で、筑波山から鋸山まで見えます。夜にはムササビを見に行きました。高尾山でも見られるのですが、御岳山のほうが簡単に見えるのではないのでしょうか。御岳山の魅力なのかどうか分かりませんが、ケーブルカーが遅くまで運行していないので、山に泊らなければなりません。そこがネックなのでしょうが、それを逆手に取って、「夜を楽しむ」形に持っていけば良いのではないのでしょうか。宿坊も、それぞれに特色があるようで、多摩川で釣った魚を食べさせてくれる宿や、高級な旅館風の宿もあつたりするようですから、色々と調べてみるのも面白いかもしれません。

(細野会長)

有り難うございました。他にいかがでしょうか。

(平野副会長)

質問があります。星空は良く見えるのでしょうか。

(山崎教育文化副部会長)

ものすごく良く見えます。東を向いてしまうと空が白くて駄目ですが、西や北の方角であれば空は真っ暗なので、星は沢山見えます。

(平野副会長)

これは夏の例なのですが、私は毎年清里でイベントを開催しており、羽村市の施設に泊るのですが、その施設には天体望遠鏡が設置されていて、星空観察の案内が来ると、夜の10時にも関わらず、親子がぞろぞろ見に来て、展望台に上がるのも待つような状況でした。その光景を目にして、「星空を見るのはみんな好きなんだな」と思いました。御岳の宿坊も、そんなに軒数があるのであれば、望遠鏡を持って行き、星空観察などのイベントを行えば親子が集まるのではないかと思いました。

(山崎教育文化副部会長)

可能だと思います。高尾山で毎週「ムササビウォッチング」があり、参加する人は、行きを最終便のケーブルカーを使い、帰りは1時間歩いて下山するのです。御岳山は1時間では降りられないので、「泊ってもらおう」ことを全面的に打ち出して、御岳山のおもてなしにすれば良いのではないのでしょうか。

(細野会長)

なるほど。コンテンツとしては御岳山は良いということですね。

(山崎教育文化副部長)

ネタは山ほどあります。

(細野会長)

修験者の方のお話を聞けたりはしないのでしょうか。

(山崎教育文化副部長)

そこまでは分かりません。

(細野会長)

他にいかがですか。

(薮田アドバイザー)

星の観察についてですが、望遠鏡はいらないと思います。ガイドがひとり居て、空に(レーザーポインターを)照らし、星の説明をするだけで観察できると思います。

(細野会長)

有り難うございました。事務局の方で何かありますか。

(事務局)

こちらから指名させていただきたいのですが、近畿日本ツーリストの馬場さん、旅行会社からのプロの目線で何かアイデアがございましたら、よろしく願いいたします。

(近畿日本ツーリスト(株)首都圏西団体旅行支店 課長 馬場 真人 様)

勉強不足で良く分からないのですが、星空や景色、あるいは動物を見ることが、精進料理等の食を組み合わせるのが大事になるのではないかと思います。次回までに研究してみますが、食の部分について少し工夫が必要ではないかと思いました。

(細野会長)

有り難うございました。ぜひ研究をお願いいたします。他にいかがですか。

(大田観光協会 事務局長 栗原 洋三 様)

御岳山ではないのですが、大田区の羽田の方に話を聞くと、講がまだ残っていて、「箱

根の裏の神社に毎年バスで連れて行くのだが、大変だ。」とっていました。講について余り詳しくないのですが、御岳でも講で来ている方がいると思うのですが、そういう方たちの楽しみを掘り起こしたら、何かアイデアが出てくるのではないかと思いました。平野さんなら調べていただけるのではないかと思いました。

(平野副会長)

私自身、当日のスケジュールがままならないところがあり、企画を再度練り直すこととなり、事務局には大変申し訳ないと思っているのですが、準備段階であれば、私でも時間を確保出来ると思います。実は、前回と今回まとめた「多摩の物語」の中に、御岳神社のことが沢山出てくるのです。やはり御岳は由緒ある場所なのだと思いました。日本武尊(ヤマトタケルノミコト)のゆかりある場所でもあったり、修験者やお寺関係の人たちが沢山関わっている場所で、御岳の物語でも、小澤酒造さんが「おいぬ様」で関わっていらっしゃいますよね。

(小澤運営委員)

それが日本武尊のことで、西国から関東に攻めてきたとき、御岳の山中で道に迷った時、オオカミが道案内をして助けたことが「おいぬ様」のもとです。

(平野副会長)

それで、「おいぬ様」の祠に毎回小澤酒造さんのお酒が奉納されているとのことですが、その他にも御岳には昔からのお話が沢山残っています。たとえ私が参加できなくても、私の仲間が「語り」を披露する場があれば、「お金はいらない」と言って喜んで参加してくれると思います。

(小澤運営委員)

それは素晴らしいことだと思います。以前、首都大学東京が、「都民の皆さんに余り知られていない東京を勉強しましょう」ということで、島部と御岳山の講習を行い、私もそれに参加したのですが、その時に、御岳山の話として出てくるのは、難しい歴史の話が多いのです。それよりも、平野副会長がおっしゃった、「昔話」的なお話を聞くことが出来れば、お子さんも喜ぶと思います。

(小峰運営委員)

夏のイベントですが、御岳山で「カンタンを聞く会」(宿坊泊)が昔からずっと開催されています。御岳山は、夜遅くまでケーブルカーが運行されていないので、泊れるというメリットを活かし、新しいイベントを作っていく必要があると思います。私も今年宿坊に泊まったのですが、夜景や星空がきれいです。オオカミの話がありましたが、いま本屋さんで売っ

ています。私は今日、仕事で山に行ってきましたが、雪が残っているにも関わらず、年配の方が沢山来ていました。年配の人が参加できるイベントを考えると良いのではないかと思います。

(細野会長)

有り難うございました。かなり意見が出ましたね。次回までにブラッシュアップしたアイデアをお聞かせいただければと思います。最後に事務局から何かありますか。

(事務局)

先ほど、「多摩川の歌」をお聞きいただきましたが、本日、「多摩川の歌」のDVDを持ってまいりましたので、関心のある方はお持ち帰りください。

6. 総括・閉会

(細野会長)

本日の総括ですが、「多摩川酒蔵街道」とオリンピックを結び付けるような工夫をお願いしたいと思います。また、冒頭で「地政学的な変動が世界的に起こっている」と申し上げましたが、これはとても不幸なことで、地域を愛するということをやっけてかないと、破壊活動が色々な所で起こってきます。格差や憎しみも同じです。ツーリズムを通じた交流がとても大切で、相互理解をしていくことが大事です。その運動が多摩川フォーラムではないかと思ひます。交流が平和に繋がっていくのだということをメッセージとして世界に伝えることが大事であると思ひました。また今日は、渡邊部会長から「身近な水の調べかた」というテキストをご紹介いただきましたが、とても分かりやすく、これを子どもたちに配り、水から始まる環境の保全について学んでもらいたいと思ひます。平和と未来は切っても切り離せません。我々がそれを発信していくことが重要です。

(小倉副会長)

本日は、事業計画と予算の事務方素案が承認されました。継続する事業と新たに始まる事業があり、また、終了する事業がいくつかありましたが、いずれも活発な議論が行われ、今後具体的に実施されることを期待します。また、御岳に関する事業の話が活発になされましたが、一方で東京には高尾山があり、多くの方が訪れる山です。御岳と対比しながら、交互にやるということも考えて良いのかなと思ひました。

(平野副会長)

いま会長から、私が文化庁の派遣で文化交流使として昨年ドイツとトルコに行ってきた話、特にトルコの話をするようにと耳打ちされたので、少しだけお話をさせていただきます。私のミッションは、名作銘文や日本の文学を伝え、それに興味ある方々と交流する

ことで、その事自体は成功したのですが、この運営委員会で伝えたいのは桜の事です。ドイツやトルコでも、「SAKURA」を知らない人はいません。日本の有名な山を聞くと、「FUJIYAMA」と出てくる人と出てこない人がいるのに、日本の有名な花を聞くと、「SAKURA」と答えるのです。「さくら～さくら～」の歌を、まずは言葉で復唱してもらい、その後せつかくだからと歌ったら、皆さん喜んで歌ってくれました。トルコ大使館の大使公邸のお庭には、もともとソメイヨシノがあるのですが、新たに一本桜が植えられていました。なぜ植えたのか伺ったら、「桜は日本の代表的な花だから」とのことでした。

講演の中で、「桜の事を色々やっています」と紹介し、多摩川フォーラムの取り組みを簡単ではありますが説明いたしました。同じ内容を大使にも話したところ、大変感動してくださいました。海外の人がビックリするのは、桜の周りに大勢人が集まって写真を撮っている風景だそうです。「その桜の木だけではなく、春になると、桜という桜の周りがみなこういう風に賑わい、人が集まるから、これが大きな観光事業になっている。そしてその事業の形態を利用して、東北復興応援をしている。何故なら桜の周りに人が集まると、そこにお金が落ち、復興に役立つからやっている。」と説明すると、海外の方は「なるほど！日本ならではの事ですね。」と感心していました。日本文化を、観光や地域起こし、東北復興応援に繋げていることを海外に発信し、外国の方と心がひとつになった事を、ここにご報告いたします。

トルコはサクランボの実の発祥の地なので、今後も何か繋がりを持って行きたいと思いました。また、トルコやドイツで、「防災も文化である」と訴え、イベント開催をお願いしたところ、トルコでイベントを2つ開催してくれました。その際聞いたのですが、トルコで災害が起きると、「これはアッラーの思し召しだから、苦しみ悲しみを忘れ、明日を明るく生きよう」と解釈し、防災教育が進まないそうです。しかし日本では、災害に対する備えは必要だと考えます。これも日本独自の文化だと思います。「多摩の物語」には、多摩川の防災という観点の物語も入っていますが、そういった意味で、多摩川フォーラムがやっていることは、日本の代表的な取り組みであることだけではなく、防災面で遅れている他のお国のお手本になるのではないかと、期待しております。

(森田副会長)

私からは、皆様に御礼とお願いをしたいと思います。いつも大変お忙しい中、運営委員会や部会にご出席いただき、大変有り難うございます。本日、事務局から話がありましたが、年間50本以上の事業を行っており、今年度もほぼ順調に運営しております。それぞれの事業に関わられた関係者の方々からコメントをいただきましたが、それぞれの事業が人気があり、実施していくことが地域にとって重要なことばかりです。地域を活性化させていくことに繋がっています。また、先ほどのように、沢山のアイデアをいただき、事務局でも頭を絞っているのですが、今日皆さんからヒントをいただき、だいぶ助かったのではないかと思います。事業年度としてはあと2ヵ月残っておりますが、予算の承認もほ

ばいただけたと思っております。正式決定ではありませんが、新年度に向かって活動をしていきたいと思っておりますので、今後とも引き続きご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。それでは、平成26年度・第2回運営委員会を終了いたします。本日は有り難うございました。

以 上

(美しい多摩川フォーラム事務局)